

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議フォローアップ小委員会
実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況 (H24.5調査)

大学名	頁数
東北大学	1
九州大学	2
鹿児島大学	4
北海道医療大学	5
岩手医科大学	8
奥羽大学	10
明海大学	12
昭和大学	13
日本大学	14
日本大学(松戸)	15
日本歯科大学(新潟)	16
神奈川歯科大学	17
鶴見大学	18
松本歯科大学	20
朝日大学	21
大阪歯科大学	23
福岡歯科大学	24
計17学部	

※フォローアップ小委員会による実地調査を実施していない大学(北海道、東京医科歯科、新潟、大阪、岡山、広島、徳島、九州歯科、東京歯科、日本歯科生命歯学部、愛知学院)及び改善事項のない大学(長崎)を除く。(計12学部)

書面審査評価シートの記入要領

各委員は、担当する大学の「書面審査評価シート」の「小委員会委員の書面審査」欄に、以下の要領によりご記入ください。

①「対応結果」欄には、「各大学の回答」を踏まえた各委員の評価としてA～Cのいずれかを記入してください。

なお、各大学が記載した「対応結果」と各委員の評価が異なる場合は、その理由を「コメント」欄に記入してください。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

②「コメント」欄には、「各大学の回答」に対するコメントや疑問点、問題点等があれば記入してください。

コメント等がなければ「なし」と記入してください。

③「ヒアリング」欄には、第1次報告への対応が極めて不十分であるなど、特に確認すべき重大な問題があり、ヒアリングを実施する必要がある場合に「必要」と記入してください。

実施する必要がない場合は「不要」と記入してください。

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
東北大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
入学定員超過の是正に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>【改善計画】 平成23年度入学試験から、入学定員の超過を是正する。</p> <p>【対応方針】 協力者会議からの指導に則り入学者の定員超過がないように、かつ東北大学の入学者選抜の基本的姿勢である優秀な学生の確保のために追加合格者を出さないことを遵守する。</p> <p>【具体的な改善内容】 過去の入学辞退者数の推移ならびに受験者の学力を綿密に分析し、合格者数を慎重に決定する。</p> <p>【改善時期】 平成23年度入学試験から実施。</p> <p>【経過】 平成23年度は入学者の定員超過に至らぬよう定員から3名超過の56名の合格者(うち私費外国人1名)を出した。しかし、東日本大震災の発生により、例年よりも多い6名の入学辞退者・手続き未完了者が出た。そのため追加合格を行ったが、優秀な学生の確保という観点から1名の追加合格者を得るに止まり、入学定員に2名満たない入学者数となった。これらの経験を次年度以降の合格者選抜に生かし、定員超過に至らぬよう、かつ優秀な学生の選抜に努力する。</p>	<p>平成24年度入学試験では、過去の入学辞退者数の推移ならびに受験者の学力を綿密に分析し、当初、定員から4名超過の57名の合格者を出したが、5名の入学辞退者・手続き未完了者が出たため、1名の追加合格者を出し、入学定員53名全てを充足した。</p>	A	なし			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
九州大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査				
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング	
平成24年度から実施される新カリキュラム臨床実習(資料1)において、平成22年度策定の歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおける臨床実習の学習目標を踏まえ、下記の改善計画を実施することで学生の臨床能力を担保する体制整備を行う。 ①臨床実習のポートフォリオを充実させ、学生の臨床実習到達目標の達成度並びに診療参加の実態の把握を容易にし、臨床実習における学生の診療行為の実施を促進する。	①臨床実習実施要項に到達目標を記載し、これに対応したポートフォリオおよび評価シートを作成した。これにより、到達目標の達成度を客観的に評価することができる体制を整えた。	B	①ポートフォリオおよび評価シートを分析し、実習の改善方略を検討すると同時に、到達目標の妥当性を検討する。				
②スキルスラボを利用した診療手技の実習を臨床実習期間中に導入し、学生の診療に関する技能レベルの確認と診療技能の習得に利用する。この実習を通して、臨床実習における学生の診療参加を促進する。さらに、スキルスラボ及びシミュレータを利用した実習を学生の学習目標の到達度の評価にも活用する。 また、臨床実習における成績評価シート(資料2)を作成し、運用することによって成績評価の客観化を図る。	②スキルスラボを活用した臨床シミュレーション実習を臨床実習予備教育に導入し、シミュレーション実習を効果的に実施する体制を整えた。上述のように、臨床予備見学、臨床シミュレーション実習、臨床予備実習および臨床実習実施要項に成績評価シートを導入した。			②臨床シミュレーション実習期間中に実施した実習の成果を踏まえて、臨床実習期間中のシミュレーション実習の充実を図る。現在用いている評価シートを再評価し、客観性の担保を目指す。			
③臨床実習専門委員会を月に1度開催し、上記2点を活用した各学生の診療参加型臨床実習の実施状況を診療科間で相互に確認し、診療科間で共有することを通して診療科間の温度差を減らし、診療参加型実習の充実に利用する。	③本年度より、臨床実習専門委員会を、月一回開催としている。			③臨床実習専門委員会の定例開催を委員会内規とすることを継続して検討する。			

<p>④平成25年春(新カリキュラムの学生の二次臨床実習期間)から臨床実習終了時の学生の臨床能力の評価のために、アドバンスドOSCEトライアルを導入する。(資料3)</p>	<p>④平成24年度臨床実習より、計画を前倒しし、一部の診療科(矯正歯科など)において、アドバンスド OSCE トライアルを実施している。トライアルの実施状況と結果について検討し、平成25年度からのトライアル継続の有効性について検討する。</p>	<p>④アドバンスド OSCE の有効性について他大学の検討結果等も勘案した上で評価する。アドバンスド OSCE トライアルの有効性が認められた場合には、実施診療科を増し関連診療科が協働実施する方向で継続的な改善を検討していく。全国の歯科大学卒業生の診療能力の改善が経年的に進んでいくか否かについての客観的調査の実施を文部科学省ならびに厚生労働省に要請し、診療参加型実習やアドバンスド OSCE の実施に伴う歯科医学教育の改善が診療アウトカムの向上に結びついているか否かを継続的に検討していく。</p>	
--	---	---	--

<p>実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)</p>
<p>入学定員超過の是正に努めること。</p>

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>平成24年度からは一般入試の辞退率を基準値よりも低く設定し、最終的に定員に満たない場合は追加合格により入学定員率を100%に調整する。</p>	<p>平成24年度においては一般入試の辞退率を基準値よりも低く設定したことにより、最終的に定員に満たない状況となったため、追加合格を行い入学定員率は100%となった。</p>	<p>A</p>	<p>平成25年度以降においても今年度と同様の調整を継続する。</p>			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
鹿児島大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度の臨床実習開始にあたり、実習終了後の到達目標を明確に定め、ブループリントを作製し、各講座の臨床実習担当領域を明確にした。併せて、シラバス上に各講座の具体的な評価方法を明示し、学生の実習に対する取り組み方の基準を示した。さらに、モデルコアカリキュラムの水準1、2レベルについて自験例を増加させる努力を各講座に依頼した。実習終了時の総括的評価法として、実習担当各講座が参加するマルチステーションOSCEを平成23年度よりトライアルとして実施予定である。将来的には学生教育と卒後臨床研修の屋根瓦式臨床教育プログラムを平成24年度より実施予定であり、教育資源の効率的な活用も目指す。	各講座の担当領域を明文化したものを各講座に配布して、実習担当におけるコンセンサスを得た。また、臨床実習に対する取り組み(評価基準)を新たに作成して、学生に周知し、評価の不透明部分を払拭した。モデルコアカリキュラム水準1,2レベルについては、各講座の努力により、自験数が増加しつつある。また、マルチステーションOSCEを2012年2月18日に実施した結果、殆どの学生が良好な成績を示したことから、診療参加型実習の実質化が進みつつあると考えられた。最後に、学生教育と卒後臨床研修の屋根瓦式臨床教育プログラムに関しては、慎重な検討を重ねた後の予定通り、24年度後期の臨床実習より行うため、準備中であり、教育委員会において問題点の洗い出しや現場での周知方針の検討を現在行っている。	A	なし			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
入学定員超過の是正に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度から私費外国人学部留学生も入学定員(53名)に含めるように是正した。	改善計画に基づき、平成24年度入試も行われた。	A	今後も同方針に基づき、入学試験を実施する。			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
北海道医療大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度の臨床実習から、臨床実習内容を「見学」「介助」「自験」に区別して記録できるシステムに変更した。加えて、臨床実習手帳を歯学教育モデル・コア・カリキュラムで設定されている水準に準拠したものに改訂した。具体的には、モデル・コア・カリキュラム「項目F臨床実習」に設定されている「一般目標」「到達目標」を踏まえ、水準1を自験として履修することを目標とした。さらに、これまで診療科単位で把握していた学生個々の臨床実習進捗状況について、全診療科にわたって把握できる体制に改めることとした。また、現存の臨床実習委員会に加え、新たに臨床実習管理・評価委員会を設置することとした。臨床実習委員会は委員長と各診療科の実習担当責任者によって構成され、診療参加型臨床実習を円滑に遂行するため診療科間の問題点を調整し、学生情報を共有する。臨床実習管理・評価委員会は委員長と実習担当診療科からの代表委員(5名程度)によって構成し、臨床実習における学習成果を総合的に評価する。なお、臨床実習管理・評価委員会は、臨床実習課題の到達状況を3か月ごとに集計して把握し、学生個々の到達状況に合わせた指導と自験症例配当の指示を行う。将来的には臨床実習課題の到達状況をリアルタイムに把握できる、コンピューターを利用した管理システムを構築するため調査・検討を進めている。	平成23年度の臨床実習に向けて、携帯型「臨床実習手帳」を作成し、コア・カリ掲載の水準1を自験として盛り込み、全診療科にわたる臨床実習の進捗状況が把握できるものとした。現存の臨床実習委員会の下に、臨床実習委員会(現存)と臨床実習管理・評価委員会を置き、臨床実習委員会では実習班編成や出欠席状況の把握など運営に関する事項を担当し、臨床実習管理・評価委員会では「臨床実習手帳」の記録に基づいた実習内容の到達や評価を担当することとし、役割を分担した。臨床実習管理・評価委員会は臨床実習委員会と臨床実習管理・評価委員会を統括することとし、制度として整ってきた。現在の「臨床実習手帳」での集計において十分に成果が得られているので、臨床実習課題到達状況を把握するためのコンピューター管理システムの整備については保留している。臨床実習終了時の最終評価は平成22年度より実技試験および臨床に即した記述試験を実施している。	B	臨床実習課題到達状況を把握するためのコンピューター管理システムの整備に関しては、その有効性について検証を深めながら、さらに検討していく。			
本学における臨床実習は歯科内科クリニックと大学病院の2か所を活用して行われているが、教員配置と施設環境要因から大学病院の臨床実習活用は十分とは言い難い状況にあった。平成23年4月に教員配置の問題を解決するため分野再編を行い、大学病院における教育担当診療科を明示するなど、臨床実習における大学病院の有効活用を図る体制とした。						

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)

優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査			
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>1. 優れた入学者の確保の方策</p> <p>優れた入学者の確保にあたっては、①本学歯学部教育の特色の明確化、②入学希望者への経済的支援および③広報活動の強化が重要と考えている。</p> <p>本学歯学部教育の特色の明確化については、従来の知識、技能、態度およびコミュニケーション能力の修得に加え、「医療系総合大学に設置されている歯学部」という環境を生かし、「チーム医療(他職種との連携医療)」を実践できる人材の育成を旗印として、これを本学歯学部教育の特色とすることとした。具体的には、チーム医療を行うにあたって必要と思われる、薬学、看護、福祉および臨床心理等に関連するカリキュラムを1年次から順次積み上げるとともに、5年次の臨床実習においては、臨地実習として位置づけるべく、カリキュラムの再編を行っているところである。また今回、改善事項として指摘されたことであるが、充実したシミュレーション教育に立脚した診療参加型臨床実習への早期転換(別項目参照)を図ることとした。</p> <p>入学希望者への具体的な経済的支援策としては、平成23年度入試から「将来の歯科医学・歯科医療を推進するリーダーと成るべく人材の養成」を目的として歯学部特待奨学金制度を導入した。この奨学金を給付することにより経済的支援を行うとともに、将来の活躍が期待される人間性豊かな入学者の確保を目指していく。また、学納金の見直しを行い、初年次納付額および6年間の総納付額を減額することにより、学資支弁者の負担軽減を図った。また、本邦の経済状況の悪化に対応した措置として、主に経済的側面から支援することを目的として実施している「夢つなぎ入試」をこれからも継続していく。</p> <p>広報活動の強化については、教員による高校・予備校訪問、地域の歯科職能団体等への情報の提供など、より一層強化を図り、優秀な入学者の確保に務めることとした。</p>	<p>1. 優れた入学者の確保の方策</p> <p>本学歯学部教育の特色の明確化では、「医療系総合大学に設置されている歯学部」という環境から、薬学、看護、福祉、臨床心理等の関連科目を必修科目として平成24年度より開講した。第1学年に「看護福祉概論」、第2学年に「医療薬学概論」、第4学年に「医療行動科学」を設定し、当該年度に順次開講することとした。</p> <p>第5学年臨床実習を臨地実習として位置付けるまでには至っていない。</p> <p>歯学部特待奨学金制度および「夢つなぎ入試」は平成24年度においても実施した。</p> <p>平成23年度より、教員による高校訪問を本格的に実施した。また、歯科医院等に対する学生募集に関するダイレクトメールの送信及びポスターの送付など、より一層の広報活動の強化に努めている。</p>	B	<p>1. 優れた入学者の確保の方策</p> <p>本学歯学部の特徴ある教育を明確にするため、平成25年度リハビリテーション科学部の開設に伴い、リハビリテーション関連科目を低学年で開講し、必修科目とすることを検討する。</p> <p>第5学年臨床実習を臨地実習として位置付ける点については受入れ施設等との調整を進める。</p>			

<p>2. 国家試験合格率の向上の方策 国家試験合格率の向上の方策として、各学年次における確実な知識、技能および態度の修得が重要と考えている。ここ数年入学時の学力格差がみられ、一部の学生に対しては低学年次での生活指導と学習の方法(話の聞き方、ノートの取り方など)等を主とする再教育を図ることを検討中であり、早期実施を計画している。また、昨年度から、1、2、3、5年次に各学年で修得し積重ねた知識を検証するための「総合学力試験」を実施している。今年度からは、3年次には「基礎医学・歯学」について復習を強化する講義を、4年次には基礎科目を、5年次には基礎と臨床科目の統合した講義を、そして6年次には歯科医学に関する総合講義を行うなど、学年毎に知識の再整理を図っている。特に6年次の留年生に対しては、従来実施してきた少人数の指導体制を強化するとともに、さらに極めの細かい指導を行っていく。また、診療参加型臨床実習は学生が歯科医師としての知識・技能・態度を真に身につける実習であり、その実施(詳細は別項目参照)は結果として実践的能力の担保に繋がり、国家試験合格率の向上に寄与するものと考えている。</p> <p>3. 入学定員の削減 本学では2011年度入学試験より募集定員を96名から86名に削減した。また、2012年4月より入学定員を100名から80名に削減する方向で、現在、各種会議で審議中であり、2011年9月には文部科学省へ収容定員の変更届出を予定している。なお、この結果、完成年次には、収容定員が600名から480名に削減される予定である。</p>	<p>2. 国家試験合格率の向上の方策 平成24年5月より、元公立高等学校校長を非常勤講師として迎え、「歯学教育支援室」を設置した。同支援室では、低学年次を対象に学習指導や生活指導、基本的な勉強方法(話の聞き方、ノートの取り方など)等の相談に応じており、学力格差の解消に向けて再教育を行っている。</p> <p>共用試験のCBTへの対応として、基礎的知識の定着を確認させるために、平成23年度にCBT判定基準試験を試行した。</p> <p>3. 入学定員の削減 2011年9月28日付で、文部科学省に対して収容定員の変更届出を行い、2012年4月より入学定員を100名から80名に削減した。これにより、完成年次には、収容定員が600名から480名に削減されることになった。</p>	<p>2. 国家試験合格率の向上の方策 卒業試験では単に知識の有無を問うのではなく、根拠に基づいた知識を問う設問を採用するよう改善を図る。</p> <p>4年次のCBT判定基準試験は平成24年度より本格実施することにより、学習意欲を喚起するように努める。</p>			
--	--	--	--	--	--

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
岩手医科大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度については、臨床実習の充実と評価法の確立を図るため(1)配属実習の比率を高めた。(2)各科でのリクアイアメントの再評価を行った。(3)終了時OSCEの導入準備として、各科で評価するための終了時OSCEを検討・実施することとした。	(1)各科への配属実習の比率を高めることにより学生が診療に参加する機会が増え、その結果、配当患者が増えた。(2)各科でのリクアイアメントを増やし、より参加型実習ができるようにした。(3)終了時OSCEについては、多くの科で導入が行われ、評価に用いられている。	A	・平成24年度については、 (1)学生実習室を新設し、一口腔単位の診療を主とする参加型臨床実習を推進する。 (2)到達度の評価を明確にするため、各科での評価法を明文化する。 (3)診療科単位での臨床実習終了時OSCE導入を推進する。			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)

優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
優れた入学者の確保にあたっては、地方にある私立大学歯学部としての特色を打ち出すべく、教育改革と人材の再配置に着手した。その第一は、歯学部と医学部の基礎講座の統合という我が国で初の試みであり、より深い医学的基盤に立脚した歯科医学教育を始めた。その第二は、これまでの教科書別並びに学年別教育を廃止し、包括的医療の実践能力の獲得を到達目標にカリキュラムの構築をしている。とくに後者については、Harvard大学との連携のもと、Comprehensive Care Clinic教育を導入し、6年間にわたって目的を見失うことなく学習することにより国家試験の合格率向上に結びつくものと考え。なお、定期的な内部及び外部からの客観的評価を取り入れ、公表し、逐一検証する。以上の二点を歯科医学を志す者に強くアピールし、優れた学生の確保に努める。募集人員は平成21年度が80名、同22年度が70名、そして同23年度が57名と、漸減させている。この募集人員は私立歯科大学・歯学部の中では最小であり、特に平成23年度程度が私学の健全経営のためのリミットと考えている。	第3学年前期までに基礎医学教育を履修し、後期から第5学年までを臨床基礎実習ならびに診療参加型臨床実習を本格的に始めた。基礎医学教育では本邦で初めての医学部との統合講座である利点を生かすべく、講義と実習の両面で可能な限り医学部と合同で行っている。その結果、学生と教員のいずれもが良い刺激を受けている。一方、臨床実習では参加型臨床実習を目的とした臨床基礎実習が充実するとともに、実際の参加型実習では症例報告会での発表を義務付けることにより、学生と指導教員の両者に切磋琢磨の姿勢がみられる。このことは第105回歯科医師国家試験の合格率上昇にもつながっている。これらの教育改革については、電子媒体や紙媒体で広く発信しており、とくに歯学部入学希望者を主体に広報活動を行っている。平成24年度入学者は残念ながら募集定員に満たなかったが、さらなる入学生の確保に努めている。なお、本学は学生一人当たりに対する配置教員数は私立歯科大学・歯学部では最多であり、入学直後よりメンタル面を含めてきめ細かな指導をおこなっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度を完成年度と設定し、Multidisciplinary Comprehensive Careを基本とした臨床能力の習得のため、患者の同意のもとに行う診療参加型臨床実習の指導体制や診療設備等のさらなる充実をはかっていく。 ・平成24年度は基礎医学教育のさらなる充実のため、医学部との共同解剖学実習指導教員を歯学部教員のなかから増員した。 ・平成25年度入学試験からこれまでの選抜方法に加え、センター試験を導入する。なお、この際志望者全員に十分な時間をかけた面接を行う。 ・平成24年度も募集定員は57名とするとともに、歯学の健全経営を念頭に、学生一人当たりに対する配置教員の質的および数的充実をはかる。 			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
奥羽大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> 診療参加型実習の充実のために、必須ケースの明確化と実施ケース数を評価の絶対条件とした。 臨床実習修了判定にOSCE形式の技能試験を実施する。 各臨床教員に対して、診療参加型実習のあり方を再確認させるためのワークショップを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床系11科目で必須ケースを明確化し評価することができた。 一部の診療科においてOSCE形式の技能試験を実施した。 H23.9.3に「臨床教育能力養成研修会」を実施した。(参加者18名、スタッフ12名) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各科でOSCE形式に相当する技能試験を検討したが、臨床実習の修了判定を行うためには、OSCE以外のほかの評価方法も取り入れて総合的に評価する必要がある。 			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> ○優れた入学者の確保 入学試験に関して本学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをホームページや広報によって周知徹底を行なう。 広報活動を強化し、新学費制度を広くアピールする。 国家試験の合格率の向上に努める。 ○国家試験合格率向上のための方策 能力に応じたクラス編成による講義を実施する。 学生による選択補講を実施する。 編入学生に対する理数系科目の補講を実施する。 ○入学定員の在り方 有能な歯科医師を輩出し、地域貢献をするために現状の定員を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学生が集まる大学にするためのプランニング」をテーマに教職員同(UD)ワークショップを開催した。 本学の方針をホームページ、パンフレットに掲載し広報した。 6年生を能力別に2クラス編成して講義を行った。 6年生に対して基礎系科目の選択補講、5年生に対して全科目の選択補講及び実習を行った。 2年次へ編入学生に対して、理数系科目の補講を実施した。 地域歯科医師会、本学同窓会と連携強化並びに風評被害の払拭のために、市民参加型の講演会を開催した。 H23.3.11東日本大震災により、歯科医療機関の減少と歯科医師の不足が十分予想される。したがって、現状の定員数を確保する必要がある。 	A	なし			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
全体として、学生の学力向上の実が上がるよう教育内容、方法の改善に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している、各学年での学生の総合的な学力を向上させるための総合学習、とI.C.T.科目を強化し、低学年(1年生、2年生、3年生)に対してもCBT形式の総合試験を実施して総合学力の向上につなげる。 ・現在行なっている各教員の教育力の向上のためのFD研修会の数を増やし、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度は、3年生に対してCBT形式の総合試験を実施した。 ・H23.8.26に「歯学教育モデル・コア・カリキュラム解説」、「CBT問題作成の現況」および「診療参加型臨床実習」をテーマに教員研修会を開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、1・2年生に対してCBT形式の総合試験の実施を計画する。 			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
明海大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>優れた入学者の確保について 平成23年度は入学定員を確保した。さらに優れた入学者を確保するため入学倍率の増加をはかり、優れた入学者を選抜してゆく予定である。さらに教育内容や教育・研究の質の向上や卒業教育などの充実をはかりながら、本学の特色をさらに積極的に広報活動などを通じて受験者に働きかけ志願者数の増加をはかる予定である。具体的に教育内容や教育・研究の質の向上については、アーリーエクスポージャーなどを含めたカリキュラムへの見直しやFD活動推進による教員の教育力の向上など、また、研究においては、歯学部における将来を見据えた重点研究テーマを選定し、分野を横断するような研究活動を推進するなどにより研究活動の充実を図る予定である。卒業教育については、生涯研修プログラムの数と内容の見直し等により、さらに卒業教育の充実を図る。</p> <p>国家試験合格率の向上のための方策について 第104回歯科医師国家試験においては、新卒・既卒合格率は全国平均を十分に上回った結果を得ている。合格率のさらなる向上のために、昨年度実施された教育カリキュラムや学生指導体制をさらに改善、充実させることによって教育力の強化を図る予定である。</p>	<p>・本学の教育内容や教育・研究、卒業教育について、受験生に対し積極的な広報活動を行った。また、カリキュラムの見直しやFD活動推進も行っている。結果、平成24年度においても志願者増加となり、優れた入学者および入学定員を確保した。</p> <p>・第105回歯科医師国家試験においては一昨年実施された教育カリキュラム、学生指導体制の改善と充実をはかったが、全国平均については僅かに下回った。</p>	B	<p>・引き続き教育内容や研究の質の向上、卒業教育などの充実をはかり、優れた入学者の確保を目指す。</p> <p>・国家試験合格率向上のために学生指導体制の充実を平成24年度4月から開始している。</p> <p>・国家試験合格率向上のためのカリキュラム改善を現在行っており、平成24年度7月から開始する。</p> <p>・以上のことを踏まえ入学定員の在り方については現状を維持し、今後も優秀な学生の確保と教育力向上を目指す。</p>			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
昭和大学

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
入学定員超過の是正に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度の募集人員については平成21年度、22年度の超過人員(10人)を削減した募集を行い、募集人員通り(86人)入学させた。	平成24年度の募集人員については、募集人員通り(96人)入学させた。	A				

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
日本大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の充実に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
現在、第5学年の6月に共用試験(CBT, OSCE)を実施している。これを平成24年度から第4学年の1月に共用試験を移行し、第5学年4月から臨床実習に入れるようカリキュラム等の見直しを行っている。	本年度第4学年から共用試験を移行して、第5学年4月から臨床実習に入るようカリキュラムを移行中である。	A	なし			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
日本大学(松戸)

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
自験(診療参加)のため、担当する患者の数・治療内容を配慮した上で、より計画的に配当する。治療計画は可能なかぎり実習期間中の完了を目指し、POMRIに基づく診療録の記載を通して患者中心の医療の実践と患者に対する責任感を醸成し、医療人として涵養する。そのためには倫理観を含めた情意領域の評価も加える。また、自験項目については、H22年度改訂モデル・コア・カリキュラムに準拠する。診療参加型の在り方については、これまで同様学部独自の考え方で実施するが、文部科学省から新たな在り方が示されればそれに従って実施する。現行のポートフォリオ・観察記録等の評価の充実を図る。H22年度より実施している臨床能力到達度試験(OSCART)は、H23年度では課題を見直し実施する。また、技能教育の充実を図るために、臨床実習室の整備およびSkill-labの拡張に努める。	H23年度から臨床実習の評価項目の見直しと変更を行ったことにより、臨床実習生が見学中心の臨床実習から主体的に取り組む臨床実習へ改善された。 ポートフォリオに関する委員会の設置により、学生へのポートフォリオの意義の意識付けと継続性がなされた。 臨床能力到達度試験の課題と評価の見直しを行った結果、終了時の質の担保を確認できた。 スキルラボの充実を図るために臨床実習室の改修を行う。	B	平成24年度から診療システムを変更し、診療参加型臨床実習の充実を図るため、学生専用診療室と臨床教育専任教員の設置を行う。			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
日本歯科大学(新潟)

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査			
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成23年度から臨床実習の内容についてその実施ケースの必修化ケースおよびその数について再度見直すとともにその評価システムを確立し実施する。	平成23年度から臨床実習の内容についてその実施ケースの必修化ケースおよびその数について再度見直すとともにその評価システムを確立した。また、平成24年度はこれをさらに強化すべく、所謂自験ケース数を増加した。	A	現在、カリキュラム改変中であるが、臨床基礎実習の時間をさらに増加させ、より充実した診療参加型になるように調整している。2012年度2年生から実施開始。			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査			
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
補欠(追加)合格を出さないなど、その質の担保についてはこれまで真摯に対応してきたが、次年度以降は実態に即した募集定員となるようさらに削減する。	特待制度を設け、優秀な入学者確保している。また、現状に即した定員とするよう、平成24年度から60人とした。	A	次世代を見据えた特色ある歯学教育を打ち出すとともに、特待制度の認知を深め、優秀な入学者を確保できるように努める。			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
神奈川歯科大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
1)入学試験成績優秀者の学費大幅減免、2)韓国進学校との指定校提携、3)学士試験による意識の高い社会人確保、4)歯科基礎、臨床科目全てに客観試験評価、5)6ヶ月間の共用試験対策、6)臨床実習時のPBL講義と模擬試験(毎月)の実施、7)6年時のメンター制度	1)入学試験成績上位20名の学費減免処置実行、2)韓国高麗大学との単位互換協定締結、3)社会人および大学院在学生の入学者を確保した、4)客観試験評価を実施、5)共用試験前の6ヶ月集中講義実施、6)PBL講義、毎月の客観試験実施、7)6年生への担任とメンター制度実施	A	なし			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
鶴見大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
臨床実習について臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
現行の科目毎の評価シートに、技能・態度領域の評価項目を5段階評価とした評価シートの作成を現在検討中である。評価方法を明確にすることで、学習意欲を高めることが可能となり、診療参加型臨床実習の充実が図れる。また、治療計画の策定や治療の流れを理解することを目的としたシミュレーション実習を臨床予備実習期間に診療科毎に行い、臨床本実習に臨んでいる。	技能・態度についての評価をはじめ、歯科医療に対する学生の取り組み姿勢や意欲などの評価が可能となった。また、シミュレーションの導入により技能の向上を認め、これらの改善に一定の成果を認めた。しかし、症例の難易度が学生によって異なることから、学生評価の均等性については問題が生じると考える	B	平成24年度から、臨床実習の評価基準については、症例の難易度、治療の難易度について各々水準を設定し、それに応じた基準を実施する。学生教育に協力が得られる患者の減少から、いわゆる、難症例が増加し、学生が担当する症例について、また、行う治療レベルに応じた水準の設定が必要なため、評価基準の再検討を行う。			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
優れた入学者の確保の方策として、入学者選抜試験の多様化や学生募集活動の強化を図っている。また、国家試験合格率向上においては、今年度にIT機器を利用した自主学習システムを構築し、学生が学習した成果をチューターが把握し、個々の学生への修学指導の強化に活用している。	入学者選抜試験の多様化や学生募集活動の強化については、大幅に見直しと改善を図ったものの、教育支出に対する国民の一般的な消費動向に埋没した観が強い。しかし、優れた入学者確保のための重要方策の一つである国家試験の新卒合格率は81.3%と着実に向上傾向にあり一定の効果が認められた。	A	学費支弁者の経済的な負担を軽減することを目的として、平成25年度入学生より学納金の見直しを検討している。また、平成25年度から学生募集活動において、本校の他、全国5か所で地区入試を実施し、入学者の確保とともに地域歯科医療に貢献できる人材の育成を強化する。国家試験対策として昨年度より導入したIT機器を利用した自主学習システムのさらなる充実を図るべく改善を進めている。			

<p>実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)</p> <p>全体として、学生の学力向上の実が上がるよう教育内容、方法の改善に努めること。</p>
--

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査			
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>昨年度よりカリキュラムの改訂を進め、平成23年度1年生より新たなカリキュラムを導入した。また、歯科医療人としての幅広い教養と豊かな人間性を身につけるために必要な知識・態度・技能の習得を目標とした「医療人間科学」では、自己学習で情報収集・分析・問題解決を行い、グループ討議をするなど、PBL形式を導入することにより学習へのモチベーションの向上に努めている。さらに第1学年の「医療人間科学実習」において主に基礎系講座の研究室等の見学やそこで行われている研究の補助を体験することにより、リサーチマインドを涵養している。</p> <p>学生にとって魅力ある大学となるためには、カリキュラムの充実、授業評価方法の透明性ならびに学修環境の充実が不可欠であり、現在改善に向けた取り組みを行っている。具体的にはシラバス上に授業評価方法を明確に記載することで評価の透明性を高めることや学修環境として図書館と連動したゾーニングによる学習スペースの提供を予定している。</p>	<p>入学時より歯科医学に興味を持たせることを目的に、1年生より歯学に関する講義と実習を導入した。具体的には1年前期に講義「歯の解剖学」を、1年後期に実習「歯型彫刻」を組み込み、歯の基本形態について学び、立体的にその特徴を習得するだけでなく、彫刻の技法により実際に造形することにより、歯科独自の器材を扱う基礎的技術の修得を図った。その結果、歯種の鑑別や形態的特徴の表現といった歯科医療人としてまず必要な知識、技能を身につけることに加え、技能実習を通して態度教育も行えた。</p> <p>また、入学式の翌週に3日間にわたり終日実施した「医療人間科学特別研修」では、歯科医療人として必要なコミュニケーション能力を高めるためにSGLあるいはSGDを中心にその技法を短期集中的に修得させた。その後の「医療人間科学実習」では歯科診療の概略を学習し、PBLを導入したことにより入学早期から、歯科への興味を向上させ、問題解決能力の重要性を認識させたことにより、歯科学生としてのモチベーションを高め、その後の歯科医学教育への積極的参加を促すことができたと考える。</p>	B	<p>平成25年度より、英語、ドイツ語といった語学講義を削減し、「歯科医学概論」や「歯科医学史」の講義を導入することにより、さらに早期に歯科医学に興味を持たせることに努める。また、3年生でも「歯型彫刻アドバンス」実習を実施することにより、1年で修得した知識と技能をさらに向上させるだけでなく、コンピュータデザインによる歯型表現を実際に学習させることにより、将来的なCAD/CAM技工の普及に準備する。</p> <p>一方、保存、補綴の基礎実習をスリム化し、一層の臨床と基礎の結びつきを図った統合科目の再編成や関連医学を強化することにより、基礎学力の備わった全体的医療を理解する歯科医師の育成を目指す。</p>			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
松本歯科大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の充実に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
第5学年のカリキュラムを改革し、臨床実習にあたる期間を190日に増加させ、内容的にも自験を含めた診療参加型臨床実習を目指した臨床実習を行っている。	2011年度より、カリキュラムを変更している。診療参加型臨床実習の具体的な取り組みとしては、シミュレーションによるポリクリを行った後、実習担当インストラクターの下に診療スタッフとして配属を行っている。診療見学・介助を経て自験にいたるまでのケースリクアイヤメントを設定して、知識・技能・態度の評価を行っている。	B	現状の実習におけるネックとして、自験ケースのための外来患者の確保の困難性があり、保険診療費の減免等の学生診療への優遇策を関係省庁に陳情を行うなども考慮している。			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
入学定員超過の是正に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
特待生制度を導入し、本年度入学者の偏差値が上昇した。今後も特待生制度を活用し、優れた入学者の確保に努める。国家試験合格率向上のため、チュータによる個人指導を行いきめ細やかな教育を実践している。入学定員については、優れた人材を確保するため、2009年度より入学定員120人のところ募集人員を80人とし、すでに入学定員より40人(33.3%)削減している。本学の教育目標の実現のために適切な規模を維持し、安定した経営基盤を堅持するため、今後もこの募集人員を維持したいと考えている。なお、優れた入学者の確保と募集定員を充足するため、2012年度より学納金を大幅に減額する。(6年間総額:1,868万円)	優れた入学者を確保するため、特待生制度を継続するとともに2012年度の入学者より学納金を大幅に減額している。(6年間総額:1,868万円) 2012年度の入学者については、募集定員を充足している。(新入学者:118人、内特待生:43人) 国家試験合格率の向上のため、チュータによる個人指導を継続している。2011年度新卒者の国家試験合格率は50%。入学定員(募集人員80人)については、本学の教育目標の実現のために適切な規模を維持し、安定した経営基盤を堅持するため、今後もこの募集人員を維持する方針である。ただし、過去数年間、募集人員に対して実際の入学者不足しており、今後の学校経営の安定化を計るため、過去の不足分を補充する必要があり、入学定員の120人を上限として新入生を獲得する方針である。	B	国家試験合格率の向上のため、卒業試験の実施方法を変更し、合格率の向上を目指す。具体的には、卒業試験を2期(11月、1月)に分け実施する。			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
朝日大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
2011年度から授業料等学費の減額等を行ったこともあり、志願者数は前年度比37.7%増加し、入学定員(募集人員)を充足した。また、入学者の入試区分において、一般入試、センター利用入試による入学生の割合が、10%増加するなど、全体として優秀かつ目的意識の高い学生を確保することができた。 今後も優秀な学生を確保すると共に、教育内容の改善に努めることにより国試合格率の向上に繋げるものとする。本学としては、引き続き多くの学生に広く修学の機会を提供するよう努力することで、入学定員の在り方については、将来的な展望を踏まえ継続的に検討するものである。	2012年度入学試験においては前年度比31.9%の志願者増(2010年度比では81.6%)となった。 入学者の選抜にあたって、一般入試・センター利用入試については、学力試験結果を重視し、AO入試・推薦入試については、講義理解力試験のみならず、面接試験、小論文の結果を重視することで、2011年度に引き続き優秀かつ目的意識の高い学生を確保することができた。 また教育方法を改善・充実したことで2011年度100名以上を卒業認定し、第105回歯科医師国家試験において新卒合格者が昨年比14名増、合格率で10.2ポイント上昇することができた。	A	なし			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)

全体として、学生の学力向上の実が上がるよう教育内容、方法の改善に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等(H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果(H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画(H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
<p>学生の学力向上に向けた方策として、2011年度から、次の改正を行った。</p> <p>(1) 初年次教育におけるカリキュラムの見直しを行い、歯科医学の導入教育として実施している基礎歯学入門及び臨床歯学入門をそれぞれ1単位から6単位に改めた。歯科医学の基礎知識について十分に学習させ、早期に歯学教育への適性を見極めるとともに、基礎学力が不足する学生については、チューター教員を通じた学習指導を徹底する。</p> <p>(2) 各授業科目を半期に開講するセメスター制を導入し、集中的な授業と学習成果の管理を行う。</p> <p>(3) 7月から歯科医学教育推進センターを設置し、授業内容の改善指導、試験問題の分析等を行うこととした。</p> <p>上記に加え、引き続き各授業における形成的評価により学習到達度を見極め、成績不振者に対する補習・補講を実施することなどにより学力向上に努めるものである。</p>	<p>2011年度改善計画に基づき次のとおり実施し、学力向上、教育方法の改善に努めることができた。</p> <p>(1) 初年次教育の改善策として歯科医学の導入教育を6単位実施した。これにより歯科医学の基礎知識を十分身に付けさせることができた。</p> <p>また、基礎学力不足の者に対しては、指導教員、チューターにより個別指導を行うなど、指導の徹底を図れた。</p> <p>(2) 授業科目の半期集中授業の実施により、学習到達度の判定を早期に行い、成績の不良な者に対しては、補講を通じ学力の補填ができた。</p> <p>(3) 歯科医学教育推進センターでは、東京歯科大学、昭和大学、大阪歯科大学を訪問し、先進的な教育改善の取組みについて調査した。また、FD活動として愛知学院大学、明海大学の歯学部長ら教育の責任者を招へいし、研修会を開催した。これらの活動を通じて、次年度に向け講義モニターの実施、試験問題の事前・事後チェックの実施、留年生対象サポート教員の配置など更なる教育改善に取り組むことができた。</p>	A	なし			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
大阪歯科大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
平成24年度からの新カリキュラム移行に合わせて、臨床実習についても、診療参加型実習の更なる充実見通しと、必須となる評価方法を検討中。	平成24年度臨床実習から、診療参加型実習の更なる充実を図るため、自験及び臨床実習終了時試験を期間を定めて実施している。	A	なし			

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
国家試験合格率の向上のための方策を入学定員の在り方を含め、検討すること。

【対応結果の指標】 A:対応済み B:一部対応済み C:未対応

各大学の回答				小委員会委員の書面審査		
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
学生指導の充実のため、平成23年度から特別アドバイザー・助言教員として、教員1名につき10名弱の学生を担当し学習指導を実施するとともに、入学定員の在り方について検討を	平成23年度に特別アドバイザー、助言教員による学習指導を実施し、低学年では効果を上げてきているので、高学年では今後の効果が期待される。	B	平成24年度は、第6学年に副指導教授及び教育アドバイザーを配置し、よりきめ細かい学習指導を実施			

フォローアップ小委員会実地調査報告書を踏まえた改善計画に対する取組状況

大学名
福岡歯科大学

書面審査担当者氏名

実地調査報告書における「今後改善すべき事項」(H23.5時点)
診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。

【対応結果の指標】 A: 対応済み B: 一部対応済み C: 未対応

各大学の回答			小委員会委員の書面審査			
改善計画等 (H23.6時点)	左記改善計画に対する取組結果 (H24.5時点)	対応結果	今後の改善計画 (H24.5時点)	対応結果	コメント	ヒアリング
1) 診療参加型臨床実習に対する患者の理解を高めるため、教育病院であることの掲示方法を見直し、問診票への記載等を実行する。(平成23年8月迄)	1) 患者の目に触れるよう掲示方法・配置を見直し、問診票への記載も実行している。(平成23年6月から現在)	A	なし			
2) 従来の口頭による同意から書面同意に切り換える。(平成23年8月迄)	2) 臨床実習用の同意書を作成し、書面同意に切り換えた。(平成23年9月から現在)		なし			
3) 小グループ構成による臨床実習によって臨床実習内容水準1の項目を実施するために、学生2~3名を指導医に配属する。(平成23年8月迄)	3) 学生約3名に1名の指導医(助教以上の教員)を配属している。(平成23年9月から現在)		なし			
4) 第6学年前期に学生の能力に応じて、水準2を実施する。(平成24年6月迄)	4) 第5学年時までの成績を考慮して水準2を実施している。(平成24年4月から現在)		なし			
5) 授業要綱行動目標の達成に対応した診療の流れを明確化し、評価項目を具体化する。各評価項目について、客観的な評価基準を作成するとともに臨床実習に携わるすべての関係者に周知する。(前期実習については作成済、後期実習については平成23年8月迄)	5) 評価基準を定め、行動目標(課題)ごとの評価項目をまとめた評価シートを作成し、客観的な評価を行っている。また、教員向けの説明会を行い(平成23年9月)、臨床実習に携わるすべての関係者に周知した。さらに、臨床実習実施責任者会議を月1、2回実施し、学生の実習状況を確認し、指導にあっている。(平成23年9月から現在)		なし			
6) 5)で作成した評価基準を用いて、患者等を対象とした総括的実技・態度評価を試験的に実施する。(平成24年3月迄)	6) 評価シートに基づき、患者等を対象とした実技・態度を評価している。(平成23年9月から現在)		なし			
7) シミュレーション実習室の効果的な利用を行うため、臨床実習学生のためのシミュレーション実習室利用マニュアルを作成する。(平成23年8月迄)	7) マニュアル(使用心得)を作成し、学生にはオリエンテーション時に配付・説明を行い、効果的な利用を図っている。(平成23年9月から現在)		なし			
8) 現行のローテーション方法を再考し、患者-歯科医師-学生の信頼関係を形成する方法を策定する。(平成23年12月迄)	8) 総合歯科・保存科・補綴科・口腔外科(一般的診療を主に行う診療科)を中心としたローテーションに切り替え、各専門外来には出向する体制を構築し、学生が同一診療科で長期に実習できるカリキュラムとして、患者-歯科医師-学生の信頼関係を向上するべく実践している。(平成23年9月から現在)		なし			